要件事項	**【UI・端末・モバイル】** 7N 改変 26-43_パッケージソフトの MSX 業務等の添付ファイル連続送信機能
機能概要	＜変更前仕様＞ 既存の連続送信機能は、複数の外部ファイル（EDI 形式の業務電文テキストファイル）を連続して送信する機能であるため、添付ファイルを付けて送信することはできない。 このため、複数回 MSX 業務等の添付ファイル業務にて添付ファイルを付けて業務電文を送信するには、その都度業務画面を開いて、添付ファイルを追加し送信ボタンを押下する操作が必要となる。
	＜変更後仕様＞ 繰返しの手間削減のため、外部ファイルに添付ファイルを自動添付して連続送信する機能を追加する。

1. 変更内容

（1） 添付ファイルを自動添付して連続送信する機能の追加

(A) 添付ファイル付き連続送信機能の呼び出し

メインメニューに[ファイル｜外部ファイルの添付付き連続送信]を追加する。

[外部ファイルの添付付き連続送信]はログオン時のみ実施可能とし、ログオフ時は選択不可とする。

なお、[外部ファイルの添付付き連続送信]は添付業務（構成情報ファイルの「attach」属性が「True」）のみ使用可能とする。



図 1 [外部ファイルの添付付き連続送信]追加イメージ

(B) 添付ファイル付き連続送信機能の概要

・[外部ファイルの添付付き連続送信]を選択することで、外部ファイル（EDI 形式ファイル）を選択（複数選択可）するダイアログを表示する。ダイアログにて外部ファイルを選択すると、選択された外部ファイルに対応する添付ファイルを自動添付して連続送信することを可能とする。

・オプション設定に[自動保存（種別単位）｜添付付き連続送信既定保存先]を追加する。

・[外部ファイルの添付付き連続送信]を選択されたときに開かれるフォルダーは[オプション設定｜自動保存（種別単位）｜添付付き連続送信既定保存先｜外部ファイル既定保存先｜送信]に設定されているフォルダーとし、初期値は「C:¥Users¥[ユーザ名]¥Documents¥NACCSv7¥外部ファイル¥送信¥」とする。

・自動添付する添付ファイルは予め本フォルダーに決められたファイル名でファイルを格納する必要がある。格納するフォルダーは[オプション設定｜自動保存（種別単位）｜添付付き連続送信既定保存先｜添付ファイル既定保存先｜送信]に設定されているフォルダーとし、初期値は「C:¥Users¥[ユーザ名]¥Documents¥NACCSv7¥添付ファイル¥送信

¥」とする。

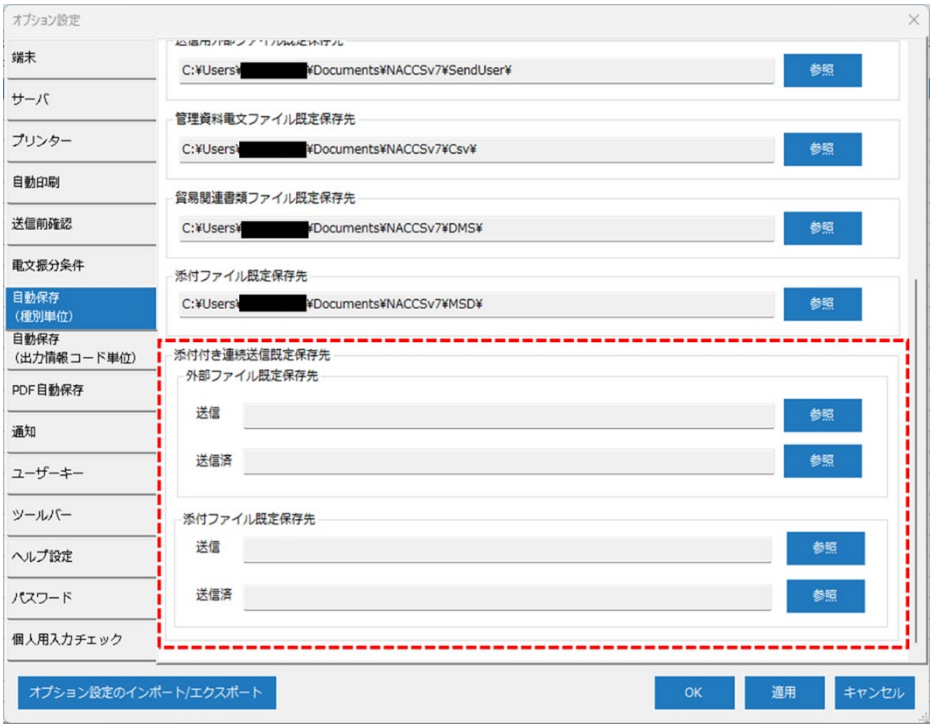


図２　オプション設定画面

・自動添付する添付ファイルは外部ファイルの「キー情報」と一致しているファイルをすべて自動添付することとする。

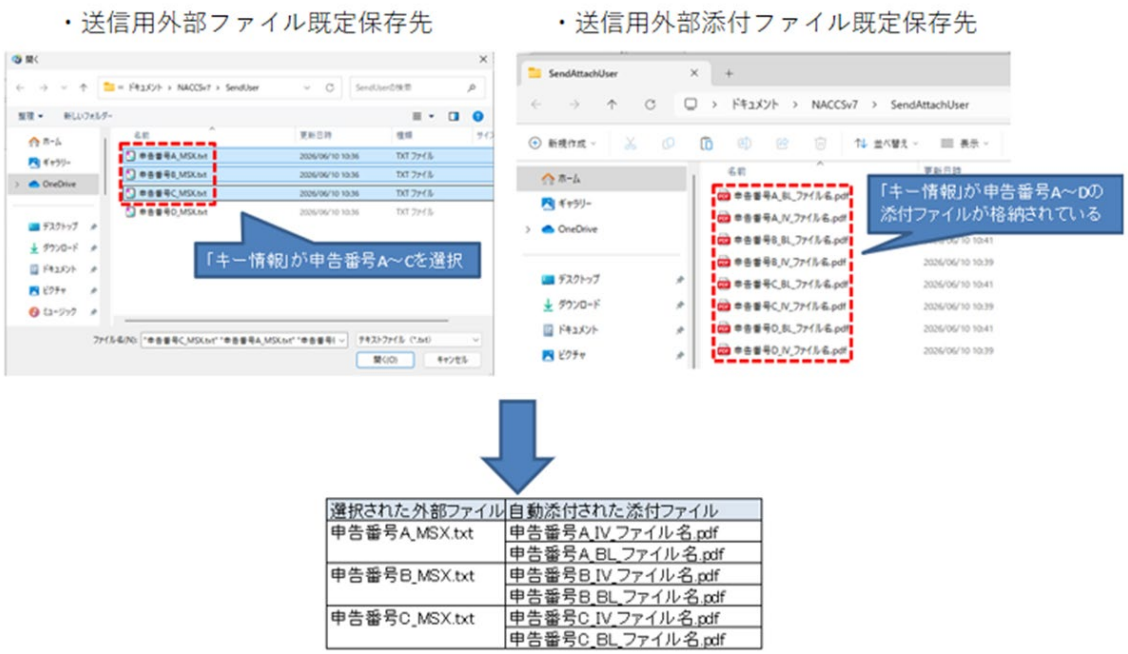
このため、外部ファイルのファイル名は「任意のキー情報_ファイル名」とし、添付ファイルのファイル名は「任意のキー情報_書類区分_ファイル名」とする。（「キー情報」が一致していれば自動添付される）

書類区分が必要な業務において、添付ファイルの書類区分は添付ファイル名の書類区分が設定される。

なお、送信時の添付ファイルのファイル名は「キー情報_書類区分_ファイル名」のまま送信する。(先頭の「キー情報および書類区分」は削除しない。)

※書類区分が不要な業務の場合は、書類区分を付与する必要はない。

※「キー情報」は半角英数字の大文字・小文字を区別しない。



選択された外部ファイル	自動添付された添付ファイル
申告番号A_MSX.txt	申告番号A_IV_ファイル名.pdf
	申告番号A_BL_ファイル名.pdf
申告番号B_MSX.txt	申告番号B_IV_ファイル名.pdf
	申告番号B_BL_ファイル名.pdf
申告番号C_MSX.txt	申告番号C_IV_ファイル名.pdf
	申告番号C_BL_ファイル名.pdf

図３　自動添付イメージ

・連続送信後は送信完了や送信時にエラーとなった電文(※)を[送信レポート]ダイアログに表示する。
また、[送信レポート]ダイアログに外部ファイルに自動添付した添付ファイル数を表示する。
※サーバからの処理結果通知電文でエラーとなった場合も送信は正常終了として表示する。
このため、サーバ処理の結果については、受信フォルダーを確認する必要がある。（既存の連続送信と同様）
受信フォルダーの確認を促すため、以下の定型文を送信レポートに表示する。

・項目名:「状態」の表示が「送信済」でも正常終了(00000-0000-0000)を送信電文から確認してください。

・送受信中のキャンセルは、NACCS へ送信済であっても状態を未送信とする場合があります。
(照会業務等で要確認)

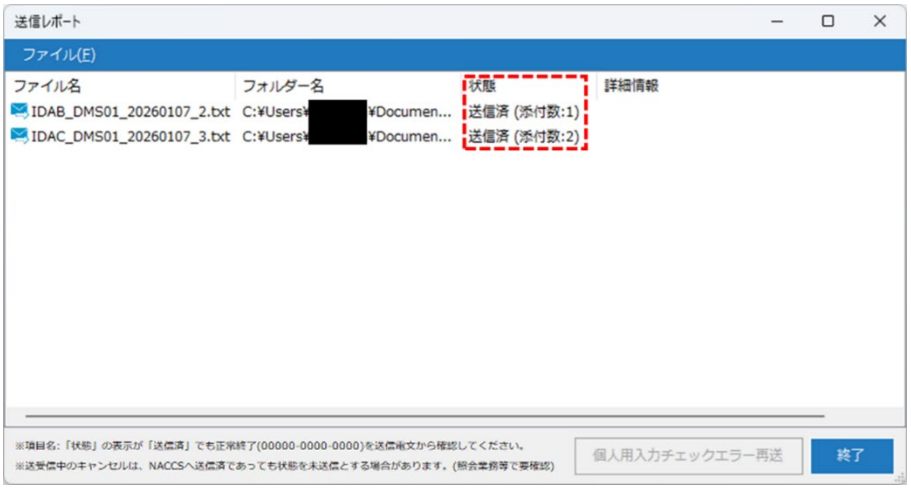


図 4　送信レポート画面

・送信済みとなった(応答電文を受信した)電文は、外部ファイルと自動添付した添付ファイルを送信済みフォルダーへコピーし、送信用フォルダーから削除することで送信済みと未送信を区別可能とする。
外部ファイルのコピー先フォルダーは[オプション設定｜自動保存（種別単位）｜添付付き連続送信既定保存先｜外部ファイル既定保存先｜送信済]に設定されているフォルダーとし、初期値は「C:¥Users¥[ユーザ名]¥Documents¥NACCSv7¥外部ファイル¥送信済¥」とする。
添付ファイルのコピー先フォルダーは[オプション設定｜自動保存（種別単位）｜添付付き連続送信既定保存先｜添付ファイル既定保存先｜送信済]に設定されているフォルダーとし、初期値は「C:¥Users¥[ユーザ名]¥Documents¥NACCSv7¥添付ファイル¥送信済¥」とする。
なお、フォルダーのアクセス権限等によりコピーまたは削除に失敗した場合は、当該ファイルの処理を中断し、後続ファイルのコピー・削除処理を継続する。
このため、コピーに失敗したファイルは送信用フォルダーにのみ存在し、送信済みフォルダーには存在しない。削除に失敗したファイルは、送信用フォルダーおよび送信済みフォルダーの両方に存在する。

(C) 送信前チェック

送信前に以下のチェックを実施する

・外部ファイルと添付ファイルの「キー情報」が一致するものが存在しない等で、自動添付する添付ファイルが存在しない場合は、送信レポートにエラーを出力する。

・書類区分が必要な業務において、添付ファイル名に書類区分がない、もしくは二桁でない場合にエラーとする。

・外部ファイルの入力チェック仕様は既存の連続送信と同様に以下のチェックを実施する。

・必須項目チェック

・桁数チェック(入力項目の桁数が固定の場合に桁数が一致しているかチェックする)

・属性チェック

・個人用入力チェック

・添付ファイルの入力チェック仕様は既存の添付ファイル機能と同様に以下のチェックを実施する。

・添付ファイル数チェック

・1 ファイルのあたりのサイズチェック

・全添付ファイルの合計サイズチェック

・添付ファイルのファイル拡張子チェック

なお、添付ファイル名の長さおよびファイルパスの長さは以下のとおりとする。

・添付ファイル名

通関関係書類の場合、拡張子を含め 50 桁(バイト)以内であること
貿易管理書類の場合、拡張子を含め 50 桁(バイト)以内であること
それ以外の場合、拡張子を含め 190 桁(バイト)以内であること
※業務により制限を設けているものもあるため、各業務での制限は業務仕様書を参照

・添付ファイルパス

ファイルのフルパスが 256 文字以内であること

2. 変更対象業務

（1） NACCS パッケージソフト

① 本体（実行ファイル）

3. 利用者影響

配布資材が実行ファイルのため、バージョンアップ後にはパッケージソフトの再起動が必要となります。なお、実行ファイルは事前ダウンロードが可能です。

4. リリース予定日／サービス開始予定日

（1） 端末資材

端末資材 ：2026 年 11 月 20 日(金)　00:00